

竹矢公民館を掘る！

作成日：令和6年7月31日 作成：松江市 文化スポーツ部 埋蔵文化財調査課

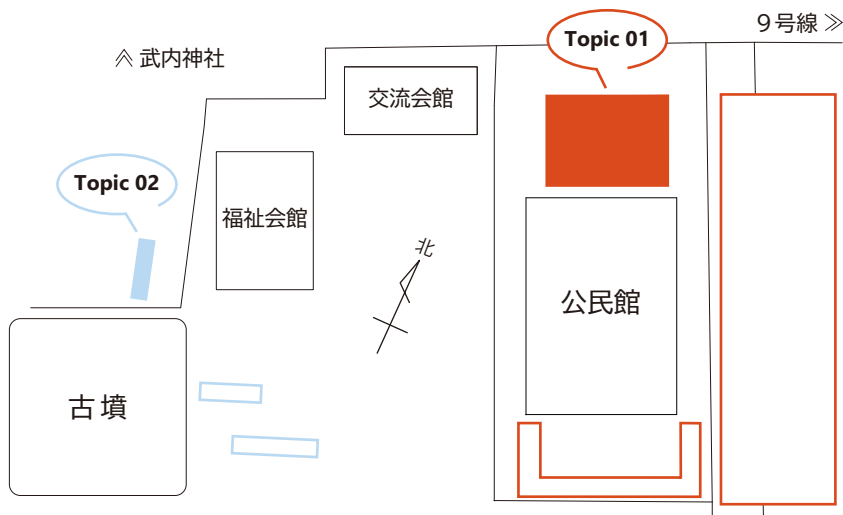
やわた かしまやま

八幡鹿島山遺跡の発掘調査成果をレポートします！

松江市では、竹矢公民館整備事業に伴い、周知の遺跡である「八幡鹿島山遺跡」の発掘調査を実施しています。

また、竹矢公民館の西側には古墳が存在しています。これは、竹矢公民館整備事業に伴う試掘調査において新たに発見された古墳です。この古墳の規模や性格を把握するため、学術的な調査も並行して実施しています。

これらの調査成果をいち早くお伝えするため、ここでは、調査で発見したことや明らかになったことを発信していきます！



※ 古墳の学術調査区 公民館整備事業の調査区

Topic 01

謎の石積みと巨大柱穴

公民館北側の調査区では、地表面から約1 m掘ったところで東西方向に延びる石積みを検出しました（写真1）。この石積みは大海崎石や島石などからなり、人工的に積まれたものです。石積み内からは江戸時代の陶磁器が出土していますが、明確な性格は分かっていません。

また、地表面から約1.4 m掘ったところでは直径1 mほどの巨大な柱穴を検出しました（写真2）。穴の底には30 cm大の大海崎石が据えてあり、平らな面を持つことから、柱の沈下防止のための礎板とも考えられます。柱穴の中からは、埴輪や古代瓦の破片などが出土しました。

この調査区では他にも、多くの弥生土器や黒曜石が出土しました。引き続き他の調査区を発掘し、遺跡の広がりや地形の変化などを調査していきます。



写真1 東西方向に延びる石積み



写真2 礎板をもつ柱穴

古墳北側の調査区では、古墳のまわりに掘られた「周溝」と呼ばれる溝と、墳丘に施された「葺石」と呼ばれる石を確認しました（写真3）。また、周溝の外側には「周堤」と呼ばれる施設がついており、そこに円筒埴輪（写真4）が並べられていた可能性が高いことも明らかとなりました。古墳がつくられた時期については、出土した埴輪や須恵器から、5世紀前半（現在から1600年ほど前）であると考えられます。

周堤をもつ点や円筒埴輪のかたちから、近畿地方の勢力との強い関係性を認めることができそうです。



写真4 円筒埴輪の出土状況

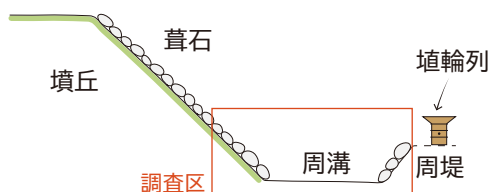


図 古墳の断面模式図



写真3 検出した周溝と葺石

調査員のよもやま話

ここ八幡鹿島山遺跡の発掘調査では、弥生時代から古代にかけてさまざまな時代の遺物が出土しています。昔の景観はどのようなものだったのでしょうか。現在は熊野から出雲郷を通り中海へ注ぐ意宇川ですが、古代には大きく蛇行し、武内神社の目前から安国寺の北側へと流れ込んでいたと想定されています。この遺跡近辺は意宇川の護岸付近だった可能性も考えられます。



■ 古代の意宇川想定流路
■ 八幡鹿島山遺跡の範囲

現地説明会のお知らせ

古墳の現地説明会を開催します。ご興味のある方は是非ご参加ください。

現地説明会はすでに終了しました。説明会資料は右のQRコードからご覧いただけます。



お問い合わせ

松江市役所 文化スポーツ部 埋蔵文化財調査課 発掘調査係（松江市末次町 86 番地）
TEL 0852-55-5293 FAX 0852-55-5571